

第120回建築セミナー

主催 茨城県建築士会
支部長
事業委員長
後援 一般社団法人

県 央 支 部
益 子 一 彦
岡 崎 和 裕
茨城県建築士会

建築士 2026 4月号
Vol.75 NO.883 より引用

特集 第13回 まちづくり賞

まちづくり大賞

事業名 玉川学園地区に於ける近隣&地域マネジメント活動
— 坂と階段の緑豊かな郊外住宅地で住み続けられるために —

受賞団体 NPO 法人玉川学園地区まちづくりの会 | 活動地域 東京都町田市

木村 真理子 | NPO 法人玉川学園地区まちづくりの会 代表理事 / 一級建築士事務所 主宰 / 東京建築士会



『住まいづくりは暮らしづくり、
暮らしづくりはまちづくり』

設計活動を通して、個人の利益や都合だけでなく廻りとの関係が良くなる建築や家づくり暮らしづくりを心掛ければ、まちはもっと気持ちよく巡り巡って暮らしはもっと楽しく安心できるものになると痛感し、「住まいづくりは暮らしづくり、暮らしづくりはまちづくり（住環境整備と地域コミュニティづくり）」を唱え続けてきました。

そのためには、設計者自身が住民として地域に関わり、顔が見える関係を築き、信頼を得て想いを共有し、時には汗を流すことも必要と、地域活動にも関わってきました。

そんな暮らしづくりやまちづくり活動の経緯や近況、活動から見えてきたことなどをお話します。

略 歷

名古屋市生まれ。

愛知県立明和高校、中部工業大学建築学科卒業
(有)村田靖夫建築研究室などを経て

1985 年一級建築士事務所木村建築研究室開室。
以来 40 年、注文住宅の設計を中心に設計活動。

また、町田市玉川学園に転居以来 40 年、町田市の各種審議委員会や社会教育委員、地元の地域活動に巻き込まれ関わる。設計者としては、耐震アドバイザー住宅改修アドバイザーとしても町田市に関わる。

2005 年より「玉川学園地区まちづくりの会」を立ち上げ、住環境整備活動を開始。昨年 20 周年を迎えた。

設計活動としては、気候風土や文化等その土地
その場所の地域らしさ・敷地条件・住まい方等
に応じて、自然の持つ力やエネルギーを最大限
に活かし身近な材料をできるだけ使い建築の基
本性能を確保するパッシブな「住まいづくり」、
メンテナンスが楽で長持ちする「住まいづく
り」、それぞれの家族らしさや自分らしさの実現
でちょっと嬉しくなる「住まいづくり」を心が
けています。

■「建築協約普及」プロジェクト

地域協議への協力・協賛改訂提案など

まちづくり憲章・建築協約看板

住みよいまちと暮らしのデザインガイド

■「さくらと緑」プロジェクト

桜と緑の保全更新・啓発&お楽しみイベント
子供広場の草刈りや整備、落ち葉堆肥化 桜と緑のプロムナード構想など

草刈りの行き届いたことも広場

桜と緑のプロムナード構想

いつも商業のお披露あげがとうございます
賞状は
賞めていただいたおまけを御覧りして
原稿士にお返しします

〇桜の開花(上野公園)前
桜、春、秋等
(大井町公園、上野公園)
みどり、秋、冬
みどり、スチール等

10月~12月
毎週 火曜日
13時~15時
午前中のみ開催
午後からは別会場にて開催

子育て世代
12月第
子育て世代
子育て世代

さくら祭り(12月)
さくら祭り(12月)

コンクリート(12月)
コンクリート(12月)

■「地域資源活性化」プロジェクト

空き家活用運 まちの緑創1丁目の加々美さん宅
啓発新聞などの定期的発行やイベント開催 地域資源の分析研究提案など

お庭カフェ 加々美さん宅

人生100年時代の暮らし方と
三方良しの 住まいの終活
上手な世代交代 講演&相談会

日にち：2024年1月20日（土曜）
時間：14時～16時30分
場所：玉川学園コミュニティセンター
2階多目的室IA・IB・2

当日参加費：無料（お弁当代別途）
定員：20名程度（先着順）
申込：12月15日まで（申込フォームより）
お問い合わせ：03-5482-1234（玉川学園コミュニティセンター）

講演者：山田太郎（生活設計士）、佐藤花子（環境コーディネーター）
共催：NPO法人生活設計支援センター、環境政策実践プロジェクト

■「地域交通事業」プロジェクト

無料地域交通の運行サポート
オンデマンド型医院限定見送り送迎事業 など

桜実会の地域貢献活動による福祉型地域交通
乗り合いサービス
さくら号

みなさま、もうご存知ですか？
2023年度から「さくら号」乗降客が増えています。
地域の交通手段として、高齢者の移動を支える役割を果たしています。
ぜひご利用ください。利用料金は、乗車回数に応じて変動します。
詳しくは、乗車券（乗車券）をご覧ください。

乗車券：乗車券（乗車券）
乗車券：乗車券（乗車券）

■「まちかど通信」プロジェクト

まちかど通信の発行

まちかど通信の発行

■「さくら号」プロジェクト

さくら号の出発式

さくら号 出発式

都営住宅の建て替え&地域施設の整備

今から30年以上前（1990年頃）から、戦後初期に建てられた木造平家二戸一（二軒長屋）の都営住宅の建て替え計画が始まったことから、まちのメイン施設が実現していったエリアです。

面開発されず、住宅地として五月雨式に発展してきた玉川学園地域では、主要なエリアにまよって開発できる場所は既に残っておらず、都営住宅建て替えは逃すわけにはいかない貴重な機会でした。

ほぼ10年に渡って地域住民が様々な形で動き提案した結果、集会施設、デイケア施設、児童館や学童保育所などの子供施設が実現しました。なお、デイケア施設と子供施設は、地元住民がNPOを立ち上げ運営を始めた全国初の施設です。



新しく建てられた都営住宅は、従来型の大きな羊羹のような建物ではなく、斜面に合わせて小さく「分棟型」とし、建物が住宅内の人達の行き来や視線を塞がないよう階段室部分で「抜け」を造っています。また、現在の原っぱの場所は、高齢者用住宅が建てられる予定でしたが、住民の要望を実現する過程で中止となり、地域のイベントや子供たちの遊び場として貴重な「こども広場」になりました。この原っぱもまた地域の住民達により維持管理されています。

著名な作家や漫画家、学者の住まい跡地

2丁目のはちまき道路（中央幼稚園からぐるりと一周して中央幼稚園に戻る道路）は、作家の遠藤周作さん、漫画家のみづはしちかさん、経済学者の向坂正男さんから著名な方々も住んでいたエリアです。



遠藤周作さんの「狐狸庵」とは、玉川学園だったのですね！氏は、地元でコーラスグループを作ったりして地域の方達とも気さくに交流されていたそうです。

みづはしちかさんは、近年までお住まいにっていました。地域を走る黄色い「玉ちゃんバス」（コミュニティバス）には、長年朝日新聞に連載された「はいアッコです」のアッコちゃん一家の楽しいイラストが描かれています。

向坂正男さんは、官僚として高度成長期に経済の舵取りをされた方で、引退後は町田市のアドバイザーとして住民参加のまちづくりを進められました。

また、玉川学園に住まっていた田河水泡さんのお弟子をされていた関係でしょうか、長谷川町子さんが所有されていた土地もありました。

玉川学園地区まちづくりの会では、何らかの形で住居のあった辺りに記念碑のような物而建てられたらと考えています。

開催日時

2026/11/11
(水) 18:30-20:00

開催場所

水戸市民会館 中会議室303・304

水戸市泉町1丁目7番1号

※駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

定員

60名

参加費

会員及び同行者 1,500円

一般 2,000円

学生 無料

※当日徴収（釣銭の無いようご用意下さい。）

※学生の方は後方の座席または定員が超過した場合は立ち見になることをご了承ください。

申込締切

2026年10月30日（金）

申込方法

下記宛にメール又はFAXにてお申し込み下さい。

メール mito-shikai@air.ocn.ne.jp

FAX 029-228-5674

お問合せ

茨城県建築士会県央支部（平日9:00-15:00）

水戸市中央1-4-1 水戸市役所建築指導課内

TEL 029-224-1111

携帯 080-4959-8339

建築セミナー 参加申込書

氏名	勤務先	電話番号	E-Mail アドレス	CPD番号	支部名

2丁目尾根道の桜並木

玉川学園は、「全人教育」を目指した小原國芳氏が本町田の農家の入会地だった当地を買取り、ゼロから開墾して造ったまちです。

まちのメインの道は、南北の丘陵地の等高線に沿った尾根道と小田急が走る谷底の道（南北の商店街）で、それらを細くて急坂のサプの道が結んでいます。

道の造成は、教員や父兄らが協力して手作りしたそうです。また、各家の道路や道路との高低差、隣地との堺は緑で緩やかにつながるよう指導したり、桜の苗木を八丈島から取り寄せて道路脇にも植えるよう配ったりもしました。



その当時の面影が今でも感じられる貴重なエリアが2丁目の尾根道です。

20年ほど前までは、各家は、まだまだ緑で緩やかにつながり、季節の変化を味わいながらの散歩がとても楽しい道でした。桜の季節には、沿道がピンクに染まって、他所からも花見客がそぞろ歩きに訪れる町田の隠れた桜の名所でもありました。

近年では、桜も大樹になり老木になって次々切られていきます。ただ憂慮するだけでなく、早急の対策や更新の仕組みが待たなします。

「まちかどベンチ」と「きんじょの本棚」

玉川学園には、町内会事務所の脇をはじめ、坂道の途中、坂や階段を登り切ったところ、コミュニティバスの停留所脇など、まちのあちこちにベンチ（憩いの椅子）が置かれています。急な坂道の多い街にはとてもありがたい設えです。

まちかどベンチは、「まちづくりの始めの一步」として、近年では多くの地域で実践されつつありますが、学園では既に20年以上前から玉川学園町内会により設置されてきています。

また、近年では、「きんじょの本棚」と書かれた本箱が、まちに点在して、個人宅やお店などの前に、置かれるようになりました。

「きんじょの本棚」とは、本好きの金城さんという女性が始めた仕組み（きんじょの本棚の本なら、どこで借りても返しても良いというもの）で、玉川学園であったという間に広がりました。特に、2丁目の尾根道には多くの本棚が置かれています。



桜の樹の下に「まちかどベンチ」と「きんじょの本棚」が置かれている場所もあり、玉川学園らしい文化的で温かい景色になっています。